

3. Am J Ophthalmol. 2022 Dec;244:117-124.

Cataract Surgery in Uveitis: Risk Factors, Outcomes, and Complications

Haya Husam Al-Ani, Joanne Lesley Sims, Rachael Louise Niederer

DOI:<https://doi.org/10.1016/j.ajo.2022.08.014>

併発白内障はぶどう膜炎の眼合併症の一つであり、ぶどう膜炎の臨床経過に伴って白内障の進行を認め、手術を要する患者は少なくありません。ぶどう膜炎を伴う白内障の手術では、虹彩後癒着や瞳孔膜形成などを伴うこともあり、一般的な白内障手術よりも術中合併症の発生に注意が必要です。また、手術侵襲を機に炎症の再燃を認めることもあり、術後合併症がしばしば問題となります。

本報告は、ぶどう膜炎を伴う白内障に対して、白内障手術を受けた 371 例 471 眼について、後ろ向きにその術中・術後合併症とリスクファクターについて検討したものです。チン小帯の断裂や前囊・後囊の破損などの術中合併症の発生率は 6.8%とそれほど多くはなく、虹彩後癒着と狭隅角が術中合併症発症のリスクファクターでした。一方で、術後の炎症の再燃は 56.5%と多くの患者で見られ、後発白内障や虹彩後癒着、眼圧上昇など術後合併症もみられました。また、11.9%で術後 6 か月以内に黄斑浮腫を認めています。

ぶどう膜炎に伴う白内障手術では、術後の炎症再燃とそれに伴う眼合併症の発症に注意が必要であり、術後の炎症コントロールの重要性について、改めて認識させられます。

(文責：北海道大学 鈴木佳代)